



命とところを守る
市政を!

横浜市会議員 / 看護師・防災士・博士(心身健康科学)

青葉台小・桐蔭・慶応大

田中 ゆき

討議資料

13
2020.9



プロフィール

- 青葉区育ち、青葉台小学校
- 桐蔭学園高等学校 / 桐蔭会(会計)
- 慶應義塾大学商学部 / 体育会ボート部
- 人間総合科学大学大学院
- 日本航空CA(客室乗務員)
- 看護師(病院・企業・学校・保育・地域包括)
- 桐蔭横浜大学保健室
- 衆議院議員江田けんじ秘書
- 所属委員会(常任)こども青少年・教育委員会 / 新たな都市活力推進特別委員会

Vol.13

フードドライブで食品ロス削減を!

1 横浜市 「手つかず食品」の廃棄、年間約2万トン

横浜市食品ロス 年間約9万4千トン! (市民一人当たり約25キロ)

食べ残し、手つかず食品、皮のむきすぎ

10000台分!

もったいない!!

2 食品ロスをなくすフードドライブ

消費しきれない食品 → フードバンク → 食支援が必要な人や福祉施設

食品ロスの削減

3 新型コロナウイルスの影響で困っている家庭、学生が急増

無収入、食べ物がない

4 青葉区4カ所※で寄付受付中

未開封、賞味期限2カ月以上、常温保存可能

提供可能な食品

早めに提供 食品ロスを削減しましょう!!

※イトーヨーカドーたまプラーザ店・ユウコープ(桜台店、ハーモス窪田、たまプラーザ店)



手つかず食品を食支援へ!

横浜市の家庭ごみの中には、本来食べられるのに廃棄される食品「食品ロス」が年間約9万4千トンも含まれています。これは市民1人当たり約25キロになる量です。食品ロスのうち約2万トンが、手が付けられないまま捨てられてしまう「手つかず食品」です。フードドライブは、消費しきれない食品を提供し、フードバンクを通じて食支援が必要な方々に届けることで、食品ロスを削減する運動です。コロナの影響で無収入となり、食支援を必要とする方が増えています。未開封で、常温保存でき、賞味期限が2カ月以上残っている手つかず食品がありましたら、青葉区内に設置されている回収箱へぜひお持ちください!



食支援の要請が急増しています！

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、急な収入減や支出増となり、生活が困窮し、食支援を必要とする方が増えています。一方、コロナ対策等で食品を大量に買い置きし、使いきれず困っている方も少なくありません。横浜市では今年7月からフードドライブによる食支援の取組を始めました。食品ロス削減と食支援が両輪として機能するよう、市政に取り組んで参ります！

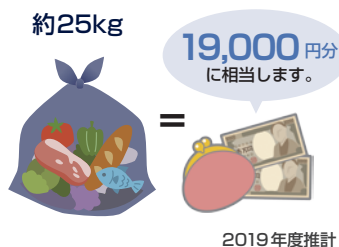
田中ゆきの「食品ロス削減と食支援」対策推進施策

- フードドライブ実施拠点の整備推進
- フードドライブの広報宣伝の充実・強化
- 食品頒布会の拠点の拡充と頒布会開催支援
- 食支援を必要とする人への情報提供手段の拡充
- 食品ロス削減のための教育、啓蒙活動
- 「食べきり協力店」事業の強化推進

食品ロスとは

横浜市では家庭から出される生ごみのうち、約5割が手つかず食品(手が付けられないまま捨てられる食品)や、食べ残し、過剰除去(野菜の皮などの不可食部を取り除く際に可食部を過剰に取り除いたもの)が原因の食品ロスです。2019年度は家庭からの食品ロスが約9万4千トン発生したと推計されています。うち、食べ残しが約6万3千トン、手つかず食品が約2万トン、過剰除去が約1万1千トンと推計されています。

横浜市の食品ロス(1人当たり)



食品ロスが生活や環境に及ぼす影響

食品ロスを含めた多くの家庭ごみを廃棄するため、ごみ処理に多額のコストがかかっています。また、捨てられてしまう食品も、生産・流通・廃棄の際に二酸化炭素を出しています。地球温暖化が進むと、気温の上昇や異常気象により農作物の生育に影響を及ぼし、食糧難や食品価格の高騰が懸念されます。



食支援を必要とする人が増えている

新型コロナウイルス感染症拡大により、特にひとり親家庭において収入が減少し、生活が困窮しているという報告があります。また保護者の収入減やアルバイト先の休業などにより、一人暮らしの大学生も、学費や生活費の支払に支障をきたし、今まで以上に食費や水道光熱費を節約せざるを得ない状況にあるという調査結果も出ています。コロナ終息が見えない中、今後ますます食支援を必要とする方が増えることが予測されています。



フードドライブとフードバンク

フードドライブは、家庭で消費しきれない食品を集めて、フードバンク団体や地域の福祉施設等に寄贈する活動のことを言います。フードバンクは、家庭や企業から、まだ食べられるのにも関わらず廃棄されてしまう食品を引き取って、食支援が必要な方々や施設等へ無償で提供する団体や活動を言います。つまり、フードドライブで食品ロスを削減し、フードバンクで食の分かち合いが進められます。



フードドライブに参加するには

青葉区内では、以下の4か所などで食品の寄付を受け付けています。寄付できる食品は、未開封であること、賞味期限が2カ月以上残っていること、常温保存できることが条件となります。アルコール類や野菜・肉などの生鮮食品、賞味期限の記載のないもの等は受け付けできません。

青葉区フードドライブ実施場所

- イトーヨーカドーたまプラーザ店
- ユーコープ(桜台店、ハーモス荏田、たまプラーザ店)他

食品ロスの削減を！

買物時に「買いすぎない」、料理を作る際に「作りすぎない」、外食時に「注文しすぎない」、そして「食べきる」ことが重要です。買い物前には冷蔵庫のストックを確認し、作り過ぎた時はリメイクするなど工夫をしましょう。また、青葉区には「食べきり協力店」登録店舗が18店舗あり、小盛メニューや持ち帰り対応などの取り組みをしています。詳しくは、横浜市ホームページ『食べきり協力店データ&マップ』をご参照下さい。

横浜 食べきり協力店

